

1 ビジョンのコンセプト（未来大国）について

- 未来に向かって進化していく、長崎が新しい技術を取り入れ、チャレンジしてきた文化を表している印象を受けた。
- リーダーは、先の先を見据えてビジョンを掲げることが大事。後で「そういうことだったのか」と納得してもらえば良い。未来と謳っているので、すごく良いと思った。
- コンセプトの「未来大国」と、主な柱の「〇〇大国」が混同して理解しにくい。
- 自分事化できるようなキーワードが大事。「大国」という言葉を聞いて県民が自分事化できるのか。
- 「大国」という言葉は硬い印象がある。例えば、カステラ県とか、「うどん県香川」のような感じのものがよいのではないか。
- ビジョンのコンセプトは、「デザイン」だと思っていて、デザインは人によって受け取り方が異なるもの。自分事化は各柱でできる。余白が大切。知事や職員がブレずに誇りをもって言い続けられるような言葉であれば良いのではないか。
- 知事の決意表明と受け止められ、いいのではないか。

2 未来大国の主な柱、ありたい姿について

● 柱立て全体

- 柱も「大国」とするのは違和感がある。大切にする価値を宣言する形もあるのではないか。例えば「子どもを何よりも大切にします」とか。
- この柱立てからは、総合計画にある「産業を育てる」というキーワードがなくなっている。
- 柱だけを見ると産業の色がないと思ったが、切り口を変えることで、それぞれの柱の下に、経済、産業が入っていくと理解した。例えば、健康大国には健康関連サービス産業など。
- 全体の構成を3つの視点で整理した方が良いのではないか。
 - ・ 「人口」の捉え方（人口は全ての柱の「掛け算」の要素）
 - ・ 「足し算、引き算、掛け算」の考え（あれもこれもやりませんとなっているが、やらないものがあってもいいのでは）
 - ・ 「時間軸」の捉え方（こどもは長期的、イノベーションと健康は中期的、交流と食は短期的）
- ストーリー（時間軸）と歴史（各柱の関係や成り立ち）の2つの考え方が大事ではないか。ストーリーと歴史ができると、コンセプトと共通の視点が出来上がるのではないか。
- 主な柱のありたい姿は、「現実的な未来」と「ぶっ飛び未来」など、2つに分けて考えても良いのではないか。
- 人口減少が進み、産業が先細りしていく中で、どのように課題解決をするのか示した方が良いのではないか。長崎県の課題を解決する部分で「長崎らしさ」を記載していただきたい。
- 横串を刺すという点で、市町と連携した取組みも重要ではないか。

● こども

- 少子化対策は成功例がなく、簡単にはいかない。私たちが生み出していかなければならないので、他の大国と意味合いが違うと感じた。

● 交流

- 国連機関の誘致など、長崎県らしいグローバルな視点が必要ではないか。平和をベースとした国際交流など。
- 世界一人気のスポットを増やしますといった、ぶっ飛んだ未来を掲げて良いのではないか。

● イノベーション

- 記載内容が一般的なものであるので、長崎らしさを記載した方がよいのではないか。長崎らしいイノベーションを深掘りされてはどうか。今の記載内容はどこの県にも当てはまる。

● 食

- 災害にも対応できるような食の大国として捉えると、例えば、食料自給率100%とかを掲げて良いのではないか。

● 健康

- 健康増進だけでなく、健康関連サービス産業や、医療・介護・看護など今後長崎県が注力する部分も入ってくるのではないか。
- 健康を叶えるためには、食も大事だし、イノベーションの活用も大事であり、交流も関係している。すべてが相互関係にあるのではないか。

3 各柱に共通する主な視点について

- 社会情勢も踏まえて、SDGsやESG、カーボンニュートラルについても記載した方が良いのではないか。
- デジタルなどをどのような「姿勢」や「マインド」で使うかが重要ではないか。
- 共通する主な視点の3つのキーワードとそれぞれの大国がどのように関係するかマトリックス表で整理した方が良いのではないか。
- 3つの共通の視点に、「誰がやるのか（地域内、地域外 等）」の視点を入れた方が良いのではないか。例えば、戦略的な情報発信は地域内の人にやってもらうなど、情報発信は長崎の中に蓄積されていくべきもの。
- 人材確保・育成について、「誰が」「どのように」という部分をもう少し具体的に考える必要があるのではないか。